

「被災地では結膜炎の発症に注意して下さい」

公益社団法人 日本眼科医会

この度の台風19号による豪雨災害により被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。日本眼科医会、岡山県眼科医会では、昨年7月の西日本豪雨災害の際に倉敷市真備町の避難所で診療を行い、半数以上の方々が目の違和感、充血等を訴えられ、結膜炎の症状を認めました。被災地は多量の土砂、汚泥に覆われており、今後冠水が引いて乾燥するに伴い、多量の土埃が予想されます。

被災地で活動される際には、手を清潔に保ち、汚れた手で直接目に触れないように注意をお願いいたします。

特にコンタクトレンズを装着脱される際には、手指の清潔に十分留意して下さい。

（泥のかき出し、処理等の作業をされる際には、眼鏡、ゴーグル等の着用を推奨いたします。）
目に異常を感じた場合には、お近くの眼科専門医にご相談下さい。

倉敷市真備町での眼科災害医療結果 2018年7月15日－16日（92名）

